

指定管理者制度活用事業 評価シート(特別養護老人ホーム)

1. 基本事項

施設名称	川崎市特別養護老人ホーム長沢壮寿の里	評価対象年度	平成22年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 ・代表者名 理事長 松本 紘 ・住所 川崎市中原区小杉町3-245	評価者	高齢者事業推進課長
指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日	所管課	健康福祉局長寿社会部高齢者事業推進課

2. 事業実績

利用実績	①特別養護老人ホーム事業(入所定員 53人) 在籍者数 52人(平成23年3月31日現在:入院等不在者を含む)							
	介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他	合計
	利用者数	4	6	8	13	21	0	52
	②通所介護事業(通所定員 50人/日)							
	(1)6～8時間(定員35人):年間延べ利用者数 6,629人:定員に対する稼働率 61.6%							
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	延べ利用者数	562	497	555	562	528	557	
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	延べ利用者数	592	597	557	549	508	565	
	(2)2～3時間(定員15人):年間延べ利用者数 1,784人:定員に対する稼働率 47.4%							
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	延べ利用者数	148	128	146	157	171	172	
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	延べ利用者数	156	171	145	139	135	116	
	③短期入所事業(通所定員 12人) 年間延べ利用者数 4,171人:定員に対する稼働率 95.2%							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
延べ利用者数	326	305	328	351	354	335		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
延べ利用者数	336	376	369	360	370	361		
④居宅介護支援事業 給付管理者数(平成23年3月分)								
介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他	合計	
管理者数	35	29	13	5	5	0	87	
⑤地域包括支援センター事業 相談件数及び訪問件数								
相談者数				訪問者数(左の再掲)				
実相談者数	延べ相談回数	実訪問者数	延べ訪問回数					
364	2,157	350	1,113					
相談内容								
介護保険サービス	福祉サービス	権利擁護	その他相談					
1,359	162	46	590					
プラン作成件数								
介護予防プラン	市単サービスプラン							
総件数	うち委託分	総件数						
189	40	3						
収支実績	①特別養護老人ホーム事業							
	(収入)				(支出)			
	介護料収入	183,043,249	人件費	158,812,068				
	利用者等利用料収入	20,043,508	事務費	38,316,315				
	その他の事業収入	0	事業費	36,680,467				
	合計	203,086,757	合計	233,808,850				
			(収支差額)	-30,722,093				
	②通所介護事業							
	(収入)				(支出)			
	介護料収入	68,172,518	人件費	56,122,838				
	利用者等利用料収入	4,027,416	事務費	8,605,121				
	その他の事業収入	0	事業費	7,887,283				
	合計	72,199,934	合計	72,615,242				
			(収支差額)	-415,308				
	③短期入所事業							
	(収入)				(支出)			
	介護料収入	41,001,171	人件費	23,736,783				
	利用者等利用料収入	5,491,080	事務費	6,631,475				
	その他の事業収入	0	事業費	7,797,221				
	合計	46,492,251	合計	38,165,479				
			(収支差額)	8,326,772				
	④居宅介護支援事業							
	(収入)				(支出)			
	介護料収入	16,673,529	人件費	15,609,998				
利用者等利用料収入	0	事務費	855,422					
その他の事業収入	566,580	事業費	0					
合計	17,240,109	合計	16,465,420					
		(収支差額)	774,689					

	①～④合計(⑤地域包括支援センター事業は別途委託のためここでは計上せず)	(収入)	(支出)	
	介護料収入	308,890,467	人件費	254,281,687
	利用者等利用料収入	29,562,004	事務費	54,408,333
	その他の事業収入	566,580	事業費	52,364,971
	合計	339,019,051	合計	361,054,991
			(収支差額)	-22,035,940
	⑤地域包括支援センター事業	(収入)	(支出)	
	介護料収入	5,238,592	人件費	22,369,542
	その他の事業収入	10,000	事務費	1,099,902
	経常経費補助金収入	22,826,712	事業費	0
合計	28,075,304	合計	23,469,444	
		(収支差額)	4,605,860	
サービス向上の取組	<p>内部・外部研修に積極的に参加するとともに、接遇の向上をテーマとし施設全体で研修に取り組んだ。特養で一人ひとりに栄養マネジメントにより個人の状態に適した食事の提供を行い栄養状態の改善に努めた。通所では連絡ノートを活用し利用者の意見が食事に反映されるようにした。感染症研修を行うとともにインフルエンザの予防接種を行い、感染症の流行防止に努めた。短期入所・通所・居宅介護支援事業で利用者満足度調査を実施したほか、利用者家族にアンケートを実施した。フットコルや立ち上がりセンサーの活用、対応方法の工夫や見守りにより事故防止に努め、事故件数減少に繋がった。</p>			

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
適正な業務実施	質の高いサービスの提供	利用者のニーズに合わせたサービス提供が行われているか	×2	4	8
		利用者の意向の確認及び情報提供等は十分に行われているか			
		地域交流(行事の開催やボランティアの受入等)を積極的に行っているか			
	健康管理	利用者の健康管理は適切に行われているか	×2	3	6
感染症への対策は適切に行われているか					
	(評価の理由) 車椅子利用者への対応について、専門的な見地から、オーダーメイド品の採用等、個別の取組が進められている点が評価できる。食事の提供については、利用者の好みを反映させるよう努めているが、報告を見る限りでは、多様な食事の提供という点で更なる工夫が必要と思われる。地域交流は、娯楽の提供を含むボランティア等を積極的に受け入れている点が評価できる。				
収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	×1	4	4
		支出に見合う効果は得られているか			
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか			
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	×1	3	3
		収入増加のための具体的な取組が為されているか			
	適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	×1	3	3
事業収支に関して適正な会計処理が為されているか					
	(評価の理由) 収入・支出とも予算と決算が近似し、計画的な運営がなされている点は評価できるが、特別養護老人ホーム事業において、事業に係る支出額が収入額を大幅に上回っている。小規模施設のため採算が厳しい点は理解できるが、同程度の規模の他施設に比べても支出額が多い傾向にある。施設の目的からすると採算性ばかりを追求すべきではないが、更なる改善を期待したい。 また、通所介護事業は、利用者のニーズに合わせて運営方法を工夫したとのことであるが、利用件数及び収入額は前年度に比べ若干であるが減少している。特別養護老人ホーム事業で採算をとることが難しいため、本事業で収入を得られるよう、利用率向上のための取り組みが求められる。				
サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	×2	3	6
		サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
	業務改善によるサービス向上	サービス向上のための取り組みがなされているか	×2	4	8
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
	利用者の意見・要望への対応	業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか	×2	4	8
		利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか			
意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)					
	利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか				
	(評価の理由) 短期入所事業及び居宅介護支援事業は利用率が高いが、通所介護事業は利用率が低いと、更なる利用増への取り組みが望まれる。サービスについては通所介護事業を通常のデイサービスと介護予防中心とを分けて利用者ニーズに合ったサービスを提供する等、改善に向けた姿勢が評価できる。 短期入所事業・通所介護事業・居宅介護支援事業で利用者満足度調査を実施したほか、特別養護老人ホーム利用者家族へのアンケート、厨房との連絡ノートの活用等、利用者ニーズの把握に力を入れている点が評価できる。				

組織管理体制	適正な管理体制の構築	必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか	×1	4	4
		定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
		再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	×2	4	8
		安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	×1	3
	事故等が発生した場合における報告等の体制は適切か				
	実際に事故等が発生した場合の対応は適切であったか。また、再発防止の取り組みがなされたか。				
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	×1	3	3
		個人情報の管理は適切に行われているか			
	(評価の理由) 本施設は他の指定管理施設との合築で、当該部分は他法人が指定管理を行っているが、日常の管理のほか行事や避難訓練等で、相互に協調しながら業務を行っている点が評価できる。 内部・外部研修に積極的に参加しているほか、施設全体での接遇向上の取り組み、職員相互の意見交換会、法人の発表会参加等、職員の資質向上に向けた取組が評価できる。 事故等の防止については、様々な改善の取り組みを行っている点は評価できるが、ヒヤリハットがほとんど報告されていない。発生自体がなかったとは考えにくいので、記録を取り、事故予防の取り組みに活用することが求められる。				
適正な施設管理	施設・設備の保守管理、清掃、警備等	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	×2	3	6
		業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
		施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
		施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
		外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
		設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
	(評価の理由) 本施設は他の指定管理施設との合築で、建物全体や敷地の管理等は他方の指定管理者が行っているが、本施設に係る部分の管理については特に問題がないものと考えられる。				

4. 総合評価

評価点合計	70	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

利用者満足度調査の実施等による情報収集と業務改善のための取組、職員の資質向上のための研修への参加などを積極的にを行い、サービスの質の向上に努めている点が評価できる。経営的には苦しい状況にあるため、通所介護事業の稼働率を上げる等による収入の増加や、サービスの質を落とさないような経営の効率化が求められる。
また、事故の予防については、ヒヤリハットの記録を取り、業務改善に活用すべきである。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

通所介護事業の稼働率を上げるための取組を行うこと。
サービスの質を下げずに、安定した経営を行うための方策について検討すること。
ヒヤリハットの記録を取り、事故の予防に活用するようにすること。